

合同会社 とむとむ (岩手県奥州市)

組織の概要

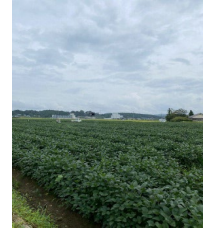
- 奥州市江刺地区内の農家で構成される合同会社、H26年に設立
- 構成農家 3戸
- 農地集積・集約による面積拡大、新しい技術の導入を進めるなど、地域農業の振興に注力している。
- 排水条件の改善や土壌改善に取り組み、品質及び収量の向上を図っている。



【(合)とむとむ事務所全景】

生産概要

- 【作付面積 (R7年)】水稲：13.89ha、大豆：13.13ha (品種：リュウホウ)
- 水稲と大豆の輪作による、ブロックローテーション実施
- 水稲とのブロックローテーションにより大豆の作付割合を徐々に拡大



【8月上旬開花期頃】

取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 地域で需要の多い品種「リュウホウ」を作付、作業効率の高いコンバインを導入し、適期刈取作業を効率的に行うことができ、品質及び収量が向上



【コンバインによる収穫】

<スマート農業の活用>

- ドローンによる雑草防除や薬剤散布を行い、作業の効率性を向上させることにより、適期作業が可能となり、収量が増加

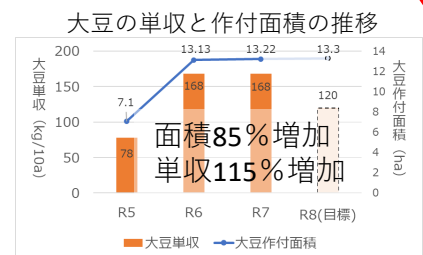
<水系別に団地化したブロックローテーションを導入し、適地適作・適期作業を徹底>

- 地域内の生産者と話し合いを行い、大豆作付ほ場のブロックローテーションを導入するとともに、大豆作付ほ場の集約により、作付面積が拡大する中において適期作業が可能となり、品質及び収量が向上

取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

- ほ場の団地化、ブロックローテーション導入を進め、大豆の作付面積が85%増加 (作付面積：7.1ha (R5) → 13.13ha (R7))
- 団地化率、稲わらや鶏ふん等の有機物のすきこみによる地力の低下防止及び排水性の改善により単収115%増加 (団地化率：0% (R5) → 0% (R6) → 35% (R7)) (単収：78kg/10a (R5) → 168kg/10a (R7))



<安定した農業所得の確保>

- ブロックローテーションにおける大豆後作による水稲栽培の減肥、化学肥料から有機肥料への転換に積極的に取り組んだ結果、生産コストを約13%削減 (生産コスト：78,754円/10a (R4) → 68,446円/10a (R6))
- 大規模団地での栽培により排水対策を効率的に実施した結果、労働時間を約46%削減 (労働時間：12h/10a (R4) → 6.4h/10a (R6))

